

おおくらだより



校訓 伸びよ 大蔵健児

—学校教育目標—

心身ともに健康で、知・徳・体の調和のとれた自主的で実行力のある児童の育成

令和8年2月号 (文責) 校長 増田 知夏子

後期後半もがんばっています

新しい年になり、一ヶ月が過ぎました。みなさま、いかがお過ごしでしょうか。学校は年度末を迎える、学習面・生活面どちらにおいても、まとめの時期となりました。一年間のまとめをすることで、これまで分からなかったことが分かるようになり、さらにしっかりと振り返ることで次の学年への準備ができます。

お忙しいとは思いますが、ご家庭でも学習面に対する声かけ、確かめなどのご協力をよろしくお願ひします。

節分祭

今年も大蔵第三地区社会福祉協議会主催のもと、勝田神社での「節分祭」に1・2年生児童と若竹学級全児童で参加させていただきました。宮司さんから「節分祭」の由来を説明された後に、待ってました！と言わんばかりに豆まきをはじめる子どもたち。昨年も一昨年も鬼を怖がる子どもたちが数人はいたはずですが・・・今年は泣いて逃げ回る児童はゼロ！それよりも、鬼は外！福は内！と豆を拾っては投げ、拾っては投げを繰り返し、寒さを吹き飛ばす勢いで元気いっぱいに参加することができました。帰り道では「おれ、鬼をぶん投げた！」「鬼がよしよししてくれた（から怖くなかった）！」と、武勇伝をたくさん聞かせてくれました。今年も地域の方に温かく見守られ、感謝しております。ありがとうございます。

読書、していますか

読書についてアンケートをとったところ、「読書は好きですか」に対しては、「好きだ」と回答した児童が非常に多かったです。しかし、「1日に10分以上読書をしていますか」という質問に対しては、「していない」と回答した児童が多くみられました。学校では図書の時間や昼休みにも図書室を利用することができますが、ご家庭では本を手に取ることができますか。挿し絵がある本もありますが、読書は文章から全ての情報を読み取ることが求められます。しかし、文章で明らかにされていない部分もあるため、読者自身の想像力で補わなければなりません。筆者はどのような意図で書いたのか、登場人物はどのような気持ちだったのか、といったふうに、想像しながら読むことになります。このように明らかにならないことを想像するということは、他人に共感する「思いやりをもつ」ことにもつながります。さらに、相手の気持ちに寄り添える「精神的な成長」も期待できます。子どものうちに多くの本に触れていると大人になっても本を手にすることが多い、とも聞きます。知識や語彙が増えるだけでなく、読書から学べることは多いですね。市内の図書館も工夫を凝らしているようです。問題集で勉強するよりも自然に学べるのが読書のよさですね。

おおくらだよりについて

スマホでは読みにくいとのお声もありましたので、レイアウトをかえてみました。残りわずかですが、どうぞよろしくお願ひいたします。